

研究ノート

本学学生の就職活動における阻害要因の検証
－就活リスタート講座アンケート結果からの示唆－

"What factors hinder student job hunting ?
(From the results of the job hunting restart course questionnaire)

後藤 和也

GOTO Kazuya

山形県立米沢女子短期大学

『生活文化研究所報告』

第48号 抜刷

2021年3月

本学学生の就職活動における阻害要因の検証 －就活リスタート講座アンケート結果からの示唆－

What factors hinder student job hunting ?
(From the results of the job hunting restart course questionnaire)

後 藤 和 也

GOTO Kazuya

要 旨

本研究では、2020年度に実施した「就活リスタート講座」の参加者アンケートの分析をとおして、就職活動につまずいている本学学生におけるキャリア支援制度の利用状況を把握するとともに、その就職活動の阻害要因について検証した。分析の結果、就職活動につまずく学生は(1)学内のキャリア支援制度を利用しない傾向にあること、(2)就職活動への悩みが多様化する傾向にあることが示唆された。

キーワード：就職活動、採用内定、キャリア形成支援、キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング

1. 問題

若年労働力人口の減少に伴い、近年の大学生の就職活動は「売り手市場」と称されているが、学生にとっての就職活動は時間的、体力的及び精神的に困難な経験となることが多い。なぜならば、就職活動はこれまで学生が経験してきた高校入試や大学入試と違い必ずしも努力と結果が比例しない(楠木, 2012)ためである。一般に就職活動は初めての経験であり、情報が過大となるため全体を俯瞰しながら活動することは困難を極める(若松・下村, 2012)。これらのことから、学生にとって就職活動は困難さを感じるように構造化されていると解することができる。

一方、大学全入時代と呼ばれて久しい昨今、学生は多様化する傾向にある。そのため、卒業後の無業状態や早期離職を防止すべく、大学等設置基準の改正による職業指導(キャリア・ガイダンス)が制度化される(中央教育審議会, 2011)など、近年は大学におけるキャリア形成支援が重視されている。

こうした状況の中、本学ではキャリア支援センター職員や教員の支援のもと多くの学生が就職活動を行っているが、他大学と同様に、比較的スムーズに採用内定を得ることができる学生とそうでない学生に二極化する傾向が散見される。

2020年度の就職活動を時系列でみれば、2020年3月の就職活動広報解禁から6月の採用選考解禁、10月の採用内定解禁というのが大手企業の基本的なスケジュールである(就職・採用活動日程に関する関係省庁連絡会議, 2019。但し、中堅・中小企業は必ずしもそれによらない)。本学卒業生の就職先を概観すれば、民間企業への就職希望者の多くは中堅・中小企業に就職するケースが多い。そのため、全国平均に比べれば相対的に採用内定を得る時期について遅くなりがちであるものの、2020年度の採用内定率について全国平均と本学を比較すると非常に大きな乖離が見られる。例えば就職みらい研究所(2020)の調査によれば、2020年8月1日時点の大学生(大学院生除く)の就職内定率は81.2%であるのに対して、本学学生は26.9%である(※本学の内定率は8月末時点)。このことから、本学学生における就職活動上の阻害要因が存在していることが予想されるが、管見の限りこれまで検証はなされていない。

2. 目的

そこで本研究では、2020年8月時点で採用内定を得ていない学生を「就職活動につまずく学生」と定義したうえで、当該学生を対象に実施した「就活リスタート講座」の参加者アンケートの結果を分析することで、当該学生の学内支援制度の利用状況を概観しつつ、就職活動における阻害要因を明らかにすることを目的として行う。本研究で得られた示唆は、今後の本学学生におけるキャリア形成支援に関する重要なエビデンスになるものと考えられる。

株式会社パーソル総合研究所・パーソルキャリア株式会社「CAMP」(2019)によれば、「多くの意見を聞くほうが良い」という意識で就職活動をした学生は、「重要な人だけに絞って話を聞けば良い」と考えていた学生と比べ、入社後の「リアリティ・ショック」が低い傾向にある。さらには、就職活動における相談先（親、OB/OG、教授、志望企業の社員など）の数が多いほど、入社前の企業・適性の理解度合いが高くなっており、多くの人の意見を参照することで理解が促進されていることがうかがえる。本学学生に置き換えれば、一般には自身の抱える悩みや不安を経験豊富な第三者に相談するなど、自身にとって身近な学内のキャリアガイダンスやキャリア支援センターを活用することが就職活動における成否のポイントになると考えられる。適切なキャリア形成支援を受けることで、学生は不慣れな就職活動上の悩みや不安を軽減でき、結果として採用内定に近づくであろう。以上の議論を踏まえ、本研究では以下の仮説を設定する。

仮説1. 就職活動につまずく学生は学内のキャリア支援制度を利用していない。

仮説2. キャリア支援センターなどの学内のキャリア支援制度を利用しない学生の悩みは多様化する。

3. 方法

3.1. 就活リスタート講座の概要

本研究の対象となる「就活リスタート講座」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い合同企業説明会が軒並み中止となるなど、例年に比して就職活動が困難を極める中、就職活動中の本学学生への適切な支援と情報提供を行うことを目的として急遽実施したものである。講師はキャリア教育を研究対象とし、かつ就職活動に関する知見を有する教員（筆者）が務めた。

講座のねらいとしては、就職活動に出遅れている学生の参加が見込まれたことから、「就職活動の復習」に力点をおきつつ、面接における面接官の評価のポイントや学内の支援制度、今後開催されるキャリアガイダンスの情報提供などを扱った。主なコンテンツについて図表1のとおりであるが、参加者として採用内定を得られていない学生を想定していることから、これまでキャリアガイダンスで扱った内容の復習や学生が利用できる学内外の支援制度の紹介、自己肯定感の下がっている学生へのフォローなどを主眼とした。

図表1 就活リスタート講座における主なコンテンツ

- 友達・先輩の就活状況は…？米短の内定状況を知る（学内の内定率等の情報共有）
- もう一度「就職活動」を理解する（ESや面接における評価のポイント等の解説）
- 今からでも採用される企業とは？（採用活動継続中企業一覧、短大に求人を出している企業の確認）
- 必見！今後開催される学内のイベント（今後のキャリアガイダンスの情報提供）
- 今夜からできる現実的な方策とは（学内の支援制度の再確認、就職ナビサイトやハローワーク等の情報提供）

3. 2. 分析の方法

(1)調査協力者

就活リスタート講座に参加した本学学生66名のうち、終了後のアンケート調査に回答した41名（2年生40名、1年生1名）を調査協力者とした。

(2)調査時期

2020年8月28日の当該講座終了時に実施した。

(3)調査場所

当該講座を実施した本学C201教室であった。

(4)調査材料

就活リスタート講座アンケートの設問等について図表2に示す。講座の有用性や参加満足度に関する設問のほか、就職活動で悩んでいること並びにキャリア支援センターなど学内キャリア支援制度の利用状況等について調査した。学内のキャリア支援施策は主にキャリアガイダンスへの参加、キャリア支援センターの利用並びにキャリアカウンセリングの利用となることから、主に設問5並びに8から10を分析対象とした。なお、当該アンケートは学生における就職活動の現状を把握するために作成されたオリジナルの内容であるため、信頼性並びに妥当性の面で留意が必要である。

図表2 就活リスタート講座アンケートの設問等

| 設問 | 選択項目等 |
|---|--|
| 1. 学年 | 2年生、1年生の2項目 |
| 2. 学科名 | 国語国文学科、英語英文学科、日本史学科、社会情報学科の4項目 |
| 3. 今回の講座で必要な情報は得られましたか | 「得られた」～「得られなかった」の4件法 |
| 4. 今回の講座で就活に自信が持てそうですか | 「自信が持てそう」～「自信が持てなさそう」の4件法 |
| 5. 就活をするうえで悩んでいることや不安なことは何ですか。【悩み第1位を選択】 | 「今の時期に何をしたいかわからない」、「ESや履歴書の書き方がわからない」、「面接で自分をPRしたりコミュニケーションが取れるか、いい印象を与えられるか」、「どのように業種や職種を選べばいいかわからない」、「就活の悩みを相談したり共有する人がいない」、「悩んでいることはない」、「その他（自由記述）」の7項目 |
| 6. 同上【悩み第2位を選択】 | 同上 |
| 7. 同上【悩み第3位を選択】 | 同上 |
| 8. 今までに、キャリアガイダンス（就活に関する講座や説明会）に参加したことはありますか | よく（継続的に）参加している～参加していないの3件法 |
| 9. 今までにキャリア支援センターを利用したことがありますか（窓口での相談や就活に関する資料等の閲覧など） | よく（継続的に）利用している～利用していないの3件法 |
| 10. 今までに、キャリアカウンセリング（後藤担当）を利用したことはありますか | よく（継続的に）利用している～利用していないの3件法 |
| 11. 就活について担任やゼミの先生に相談したことはありますか | よく（継続的に）相談している～相談していないの3件法 |

| | |
|--|----------------------------|
| 12. 就活について家族や友人に相談したことはありますか | よく（継続的に）相談している～相談していないの3件法 |
| 13. キャリア支援科目「ライフ・キャリアデザイン」、「現代社会とキャリア形成」、「キャリア実践講座」を履修したことがありますか？ | 2科目以上履修した～履修していないの3件法 |
| 14. 今後希望するキャリア支援（「〇〇の内容の説明会を実施してほしい！」「〇〇についての相談に乗ってほしい」など）について、自由に記入してください。この講座の感想などでも結構です | ※自由記述 |

(5)調査手続き

就活リスタート講座の参加学生に対して、講座終了後に上掲のアンケート調査への回答を依頼した。なお、当該アンケートはGoogle foamを用いてWEB上で行う形式とした。その後、仮説の検証のため、該当する設問同士のクロス集計を行った。

(6)倫理的配慮

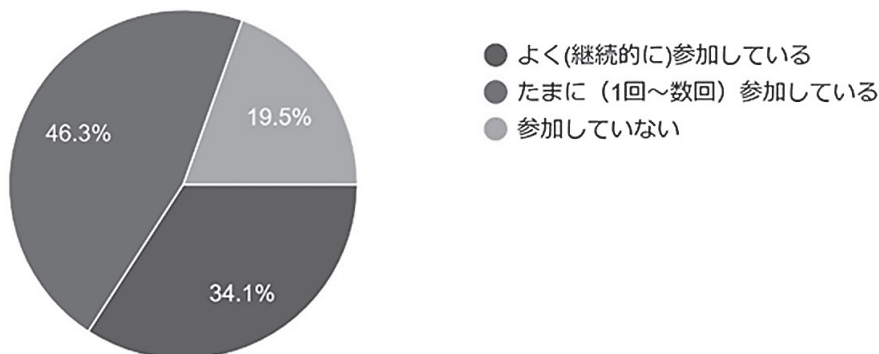
アンケートは未記名とするなど個人が特定されない仕様としたうえで、アンケート結果については学生のキャリア支援施策の改善等に使用すること、また、回答しない場合でも不利益は生じないことを説明のうえ、回答したことをもって同意を得たものと判断した。

4. 結果

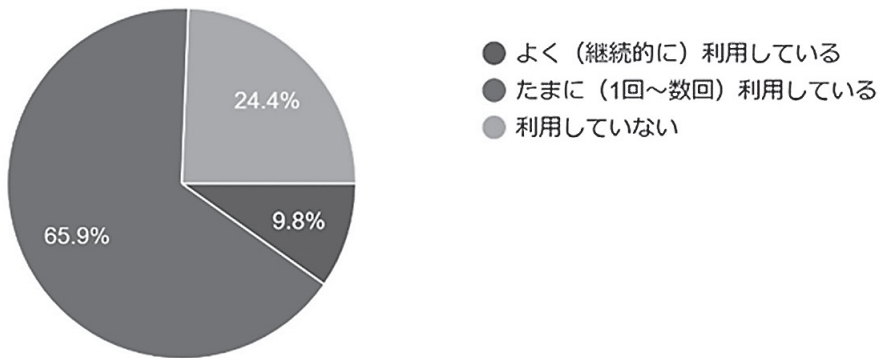
4.1. 受講学生のキャリア支援制度利用に関する概要

まず、設問8から10の集計結果を概観し、当該セミナー受講学生における本学キャリア支援制度の利用状況をつかむ。図表3～5に示すとおり、キャリアガイダンス・キャリア支援センターについてはおよそ2割前後の学生が参加しない・利用していないという状況であった。また、たまに参加するという学生が多数を占め、よく参加すると回答した学生はわずかであった。なお、キャリアカウンセリングのみその他の支援制度に比べ利用率が低い、これは2019年度から新設されたため認知度が低いことによるものと推察される。以上のことから、仮説1の一部が支持された。

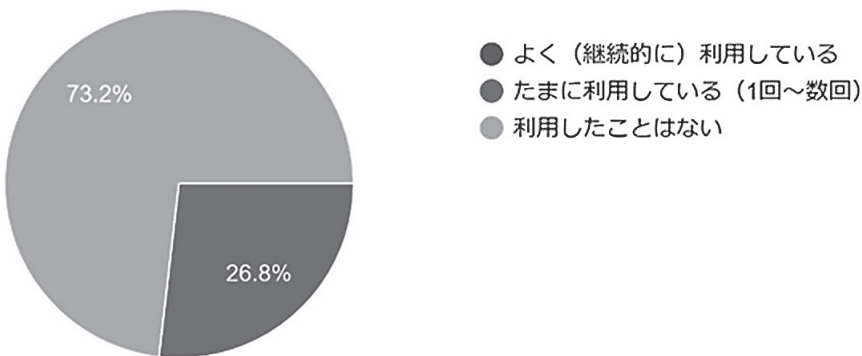
図表3 キャリアガイダンスの参加状況



図表4 キャリア支援センターの利用状況



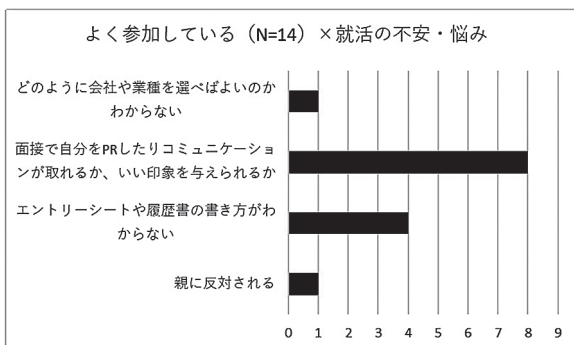
図表5 キャリアカウンセリングの利用状況



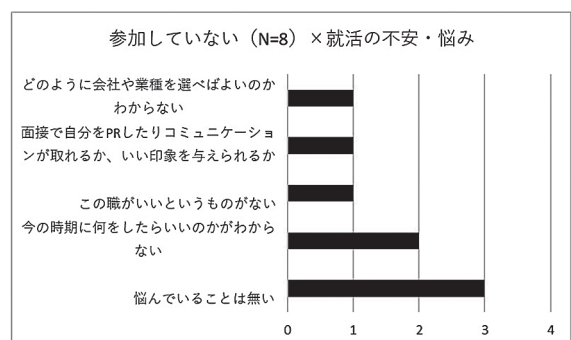
4. 2. 就活に対する悩みについての分析結果

仮説2（キャリア支援センターなどの学内の支援制度を利用しない学生の悩みは多様化する）を検証するため、設問5（就活をするうえで悩んでいることや不安なことは何ですか。【悩み第1位を選択】）と設問8（今までに、キャリアガイダンス（就活に関する講座や説明会）に参加したことはありますか）のクロス集計を行った。同様に、設問5、設問9（今までにキャリア支援センターを利用したことがありますか（窓口での相談や就活に関する資料等の閲覧など））並びに設問10（今までに、キャリアカウンセリング（後藤担当）を利用したことはありますか）のクロス集計を行った。結果について図表6～11に示す。

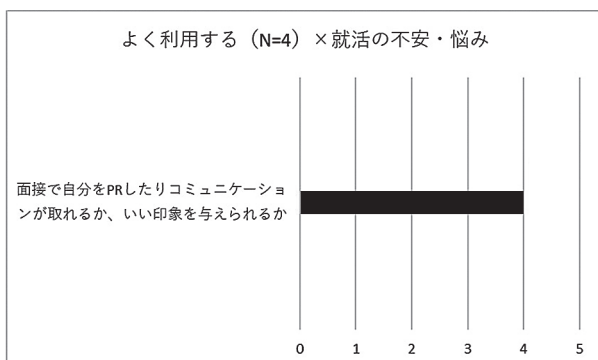
図表6 就活の不安とキャリアガイダンスの参加状況のクロス集計（よく参加している者、N=14）



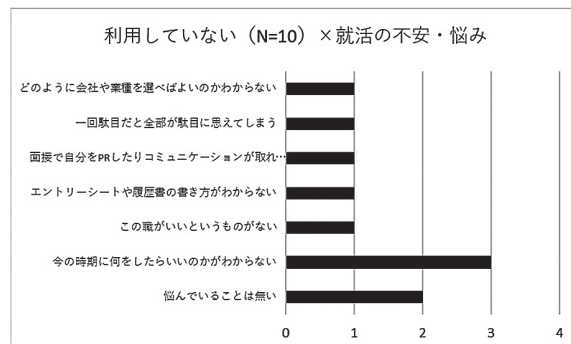
図表7 就活の不安とキャリアガイダンスの参加状況のクロス集計（参加していない者、N=8）



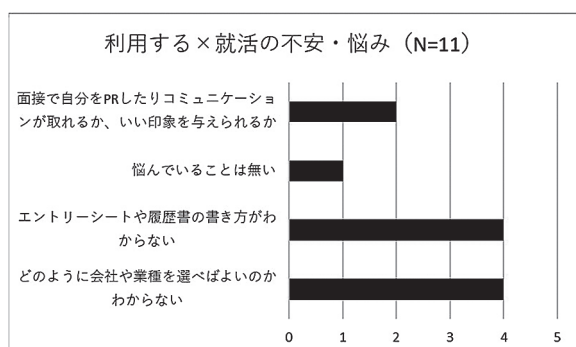
図表8 就活の不安とキャリア支援センターの利用状況のクロス集計（よく利用する者、N=4）



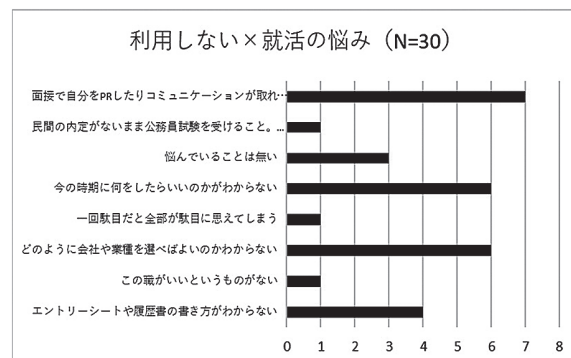
図表9 就活の不安とキャリア支援センターの利用状況のクロス集計（利用していない者、N=10）



図表10 就活の不安とキャリアカウンセリングの利用状況のクロス集計（利用する者、N=11）



図表11 就活の不安とキャリアカウンセリングの利用状況のクロス集計（利用しない者、N=30）



結果を概観すると、回答者数の偏りが見られる設問があることに留意が必要であるものの、学内のキャリア支援制度であるキャリアガイダンス、キャリア支援センター並びにキャリアカウンセリングを利用していない学生の悩みは、利用している学生のそれに比べ多様化・複線化している傾向が伺えた。よって、仮説2の一部が支持された。

5. 考察

本研究は、2020年8月時点で採用内定を得ていない学生を「就職活動につまずく学生」と定義したうえで、当該学生を対象に実施した「就活リスタート講座」の参加者アンケートの結果を分析することで、当該学生の学内キャリア支援制度の利用状況を概観しつつ、就職活動における阻害要因を明らかにすることを目的として実施した。検証の結果得られた示唆は以下のとおりである。

第1に、就職活動につまずく学生は学内のキャリア支援制度を活用しているとは言い難い状況であった。進路選択に際し多くの情報や示唆が得られるキャリアガイダンスやキャリア支援センターを頻度高く利用する学生は多くなく、両制度を利用しない学生も2割前後いることが明らかになった。また、キャリア教育担当教員によるキャリアカウンセリングも認知度不足のせいかな当該学生の受け皿とはなっていなかった。本研究では「なぜ、メリットが多いと思われる学内のキャリア支援制度を活用しないのか」についての設問はないため、今後検証が必要である。

第2に、学内のキャリア支援制度を利用しない学生の悩みや不安は多様化する傾向が示された。この結果から、就職活動につまずく学生に対して、まずは学内のキャリア支援制度に乗るよう指導を行うことが有益である可能性が示唆された。ただし、本研究は受講学生のアンケート結果に基づく量的な調査である

ことから、キャリア支援制度を利用しないことで悩みや不安が多様化するのか、反対に悩みや不安が多様化した学生はキャリア支援制度を使用したいと考えないのかの判別はできない。そのため、今後は就職活動を成功裏に展開できた学生に対する調査が不可欠である。就職活動を成功させるための行動特性などについて分析を行うことで、さらなる示唆が得られよう。

第3に、本研究は量的な調査であり、学生の悩み・不安の内容や深さなどの質的な検証は行っていない。今後は学生にインタビュー調査を行うなどを検討したい。以上の点において、本研究における課題は数多く残されており、予備的段階にあると考えられる。

謝辞

「就活リスタート講座」の企画及び運営に際しては、本学教務学生課キャリア支援主査伊藤雅良氏、並びにキャリア支援センター職員の皆様に多大なご尽力を頂いた。ここに記し、感謝の意を表したい。

付記

本研究は、2020年9月に開催された本学キャリア支援委員会の報告資料に大幅な加除修正を行ったものである。

引用文献

- ・株式会社パーソル総合研究所・パーソルキャリア株式会社「CAMP」(2019)「就職活動と入社後の実態に関する定量調査」(<https://rc.persol-group.co.jp/research/activity/files/c6bd0626d11bb6426ca23ad9f6f9724952405458.pdf>)。2020.10.20取得
- ・楠木新(2012)『内定「とれる人」「とれない人」－カリスマ人事担当者が就活生に教える』三笠書房
- ・就職・採用活動日程に関する関係省庁連絡会議(2019)「2021年度卒業・修了予定者の就職・採用活動日程に関する考え方」(https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/shushoku_katsudou/pdf/r011030_siryuu.pdf)。2020.10.20取得
- ・就職みらい研究所(2020)「就職プロセス調査(2021年卒)「2020年8月1日時点 内定状況」」(https://data.recruitcareer.co.jp/research_article/20200806001/)。2020.10.12取得
- ・中央教育審議会(2011)答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000015s0j-att/2r98520000015sp1.pdf>)。2020.10.12取得
- ・若松養亮・下村 英雄(2012)『詳解 大学生のキャリアガイダンス論：キャリア心理学に基づく理論と実践』金子書房

